

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)北千里小学校跡地複合施設	階数	地上2F、地下1F
建設地	大阪府吹田市古江台3丁目119-5、119-149	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、指定	平均居住人員	400人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,600時間/年(想定値)
建物用途	学校、集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年7月 予定	評価の実施日	2020年12月21日
敷地面積	5,250 m ²	作成者	内藤建築事務所 浪江 明弘
建築面積	1,928 m ²	確認日	2020年12月25日
延床面積	2,924 m ²	確認者	内藤建築事務所 浪江 明弘



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.7

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%☆☆☆☆ 60%☆☆☆☆ 80%☆☆☆☆ 100%☆☆ 100%超:☆☆

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.8

LR のスコア = 4.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合	複合化により多世代交流が生まれる“マチナカリビング” リビングが家族の結びつきを育む場であるように、ここを気軽に訪れ、集い、ともに心を育む、すべての人のための「マチナカリビング」を実現します。あらゆる世代に開かれた、みんなで作るハートウォーミングな居場所にします。	その他 0
Q1 室内環境	室温制御や照度の確保、将来性を考慮し、十分な設備容量を確保します。	Q3 室外環境(敷地内) 阪急北千里駅に近い、E.V棟から複合施設棟の連続性を確保します。
LR1 エネルギー	太陽光発電、Low-Eガラスの採用や、トップライトからの自然採光の取入れ等、自然エネルギーを積極的に活用する計画とします。	LR3 敷地外環境 外構計画における敷地内法面の緑化や駐車スペースの緑化ブロック等を積極的に活用し、緑化率・緑被率を30%以上を確保します。また、保水性舗装の採用により、地部分の温度上昇の抑制を図ります。 また、特定悪臭の取り扱いは有りません。
Q2 サービス性能	バリアフリーの条例基準に加え、ユニバーサルデザインを推進し、サイン計画や各種仕様、照明計画等を行います。	
LR2 資源・マテリアル	節水型の器具やリサイクル材の採用等、省エネルギー性の高い計画とします。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R2-0136

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】		建物名称	(仮称)北千里小学校跡地複合施設建築工事						
		建設地	大阪府吹田市古江台3丁目						
		用途/区分	集会所 学校(大学等)						
【評価結果】		CASBEE 総合評価					A		
①	CO2削減					4			
②	みどり・ヒート アイランド対策					3			
③	建物の断熱性					5			
④	エネルギー削減					5			
⑤	自然エネルギー直接利用					○			
		再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—	—
			太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—
エネルギー消費量の報告						報告しない			
【評価項目】									
項目		評価内容				スコア	評価		
①	CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.9	4		
②	みどり・ヒートアイランド対策								
	生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				2.0	3		
	敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価				3.0			
	温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価				3.0			
③	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				5.0	5		
④	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				5.0	5		
⑤	自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				4.0	○		
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない		
その他									
先進的技術の導入		技術の名称			考慮事項				
特に配慮した事項		特に無し							